

Absences —不在—

企画：ジャサ・マッケンジー

2018年7月1日（日）—7月22日（日）

13:00—19:00

木—日曜開廊

N-mark

〒453-0803名古屋市中村区長戸井町4-38

黄金4422 BLDG. 5F

オープングレセプション

6月30日（土）18:00—20:00

出展作家：

渡辺篤

チェン・アン・アン

モーラ・テレース



Chen An An, *The Unbearable Lightness of Being*, 2016

「Absences—不在—」展は、不在という概念と心の病にまつわるさまざまな経験との関係を探るものです。参加する作家たちは、物や場所、人からの距離感あるいは孤立の感覚を—物理的、精神的または感情的な不在を表現した作品を発表します。この企画は東洋の文化、特に日本における精神疾患の捉え方から着想を引き出し、直接的・間接的に心の病を経験しているアーティストに場を提供します。自殺率が先進国の中で3番目に高い日本で心の病に関するこのような開かれた展示を行うことにより、この話題についてのオープンな会話を阻んでいるタブーの払拭を試みたいと思います。アートはこの企画において重要な仲介役であり、普段は議論されない問題に人々をいざないます。

本展は日頃から若いアーティストたちを支援している名古屋の実験的なアート組織、N-markの拠点で開催されます。日本の若年層は、主に学校や職業生活を始めることのプレッシャーから自殺率が著しく高く、この年齢層の最大の死亡原因になっています。この「Absences—不在—」展は特に、大きな自己成長の時期に直面する若者にとってのメンタルヘルスの重要性について考察を促します。

また本展では心の病というテーマに取り組む東洋と西洋両方のアーティストを紹介します。それによって異なる文化間の対話を誘い、心の健康について鑑賞者が新たに知る別の見方として受け入れ、そこから学ぶことができるような視座を提示します。さらに、心の病に関する経験と表現の中に文化を超えた共通性を探ることは、公共の領域でこの問題を取り上げることが促します。悲しいことに不在という感覚は文化を超えて通じるものですが、心の病に関する考察をオープンに分ち合うための共通の拠りどころを与えてくれます。

「Absences—不在—」展はapexartのプログラム「オープンコール」によって選出されました。詳細および画像については press@apexart.org へのメールにて、または <https://apexart.org/> からお問い合わせください。

ギャラリースペースと展示へのサポートに関して、武藤勇氏とN-markに深く感謝いたします。また、この展示に不可欠な助手として鶴飼聡子、そして器材をお貸しいただきました、ARTISTS' GUILDに対し心から感謝いたします。

ジャサ・マッケンジーは米国のニューヨークとミネアポリスを拠点にキュレーターおよびアーティストとして活動しています。ミネソタ州オーガスバーグ大学のスタジオアートコースで学士号を、ニューヨーク州スクール・オブ・ビジュアル・アーツのキュラトリアル実践コースで修士号を取得。その活動の動機にはアイデンティティ、平等、社会正義に関する問題への関心があります。最近の展覧会に *My-O-My*, *The Map is Not the Territory*, *Femexplicit Digitalia* など。

apexartが運営するプログラムは一部、アンディ・ウォーホル美術財団、プール財団、ブルームバーグ・フィランソロピーズ、グリニッジ・コレクション、ウィリアム・タルボット・ヒルマン財団、アフターメイション芸術文化基金、ミルトン・アンド・サリー・アヴェリー芸術文化財団、フィフス・フロア財団、ならびに市議会の協力を受けたニューヨーク市文化局およびアンドリュー・M・クオモ知事とニューヨーク州議会の支援を受けたニューヨーク州芸術評議会からの公的助成による後援を受けています。

#Absences

291 church street, new york, ny 10013
t +1 212 431 5270 www.apexart.org